

## 来日時の1冊の本との 出会いから 日本研究者になった ジョン・ブリンさん

John BREEN

国際日本文化研究センター准教授

ジョン・ブリン●1956年、ロンドン生まれ。84年からロンドン大学アジア・アフリカ研究院 (SOAS) で教鞭をとる。92年、ケンブリッジ大学で博士号取得。専門は日本史 (近世、近代)。2008年3~7月、ジャパンファウンデーション日本研究フェローとして来日。京都大学で「日吉大社：近世、近代日本における神社と神道を吟味する」をテーマに研究。同年9月から現職。Yasukuni, the War Dead and the Struggle for Japan's Past (編著) など多数

# 京

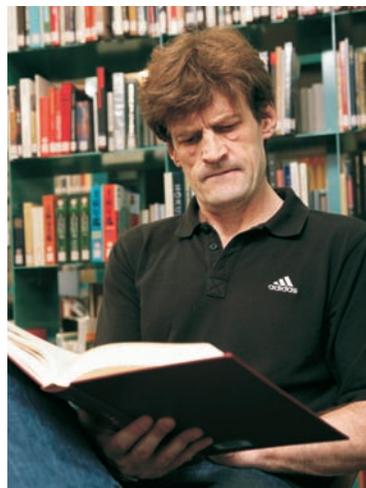
都在住のイギリス人、ジョン・ブリンさんは、

国際日本文化研究センター准教授として、「神社と神道」「明治天皇と外交」などをテーマに研究している。

お父さんがBBCの極東担当をしていたため、子どもころから、日本は身近な存在だったという。そうしたことも影響してか、大学では日本研究を専攻した。

しかし、ブリンさんの大学時代は、「恥ずかしいくらい、不真面目」だったとか。

そんなブリンさんが日本研究者となるきっかけとなったのが、大学時代の1年間にわたる休学だった。ブリンさんは、日本の貿易会社に英語教師として来日。ふと立ち寄った書店で、隠れキリシタンに関する本が目にとまった。「その本を読んで湧き出た興味を追求するには、研究者になるしかない」。好奇心あふれるブリンさんの姿は今回の写真撮影でも顕在。本を手にポーズをとるだけのはずが、いつの間にか読みふけていた。社員寮での生活を通じて、日本語を上達させ、そのコミュニケーションから日



ストレス解消法は、日本史の研究の合間に行なう、太極拳、水泳、柔術だそう。ジャパンファウンデーション・ライブラリーにて

撮影：岡関 (上も)

本に対して持っていた既成概念が取り払われたという。また日本女性の美にも気がつき、現在の奥様と出会ったのも、来日中の出来事だったとか。

ブリンさんに日英両国の人々に期待することを伺うと、歴史家らしいメッセージをいただいた。

「英国と日本との交流は、17世紀まで遡りますが、その間に不幸な出来事もたくさんありました。大英帝国と大日本帝国が1940年代にぶつかり合う悲劇が、その交流の歴史をある意味で定義づけてきたとも言えます。我々は、その歴史を常に批判の目をもって見つめる必要があります。同時に、両国の若者がお互いの歴史を批判的に見られるような教育が、今こそ求められているように思います」

(小林 剛)